



ポスト万博シティ推進に向けての提言

令和 7 年(2025 年) 7 月

けいはんな学研都市

「大学・研究機関」共創会議

1 提言の背景

「2025 年大阪・関西万博」後のポスト万博シティの推進に向けて、けいはんな学研都市が持つ強みや課題、そして目指すべき方向性等について、けいはんな学研都市に係る 13 大学、8 研究機関等で構成される「大学・研究機関」共創会議において議論を重ね、その結果を提言として取りまとめた。

2 現状と課題

「西欧文明の成果と自らの東洋文化を統合することでめざましい社会経済の発展を遂げた日本は、科学立国と文化立国を国是として新しい地球文明創出のために積極的な役割をになおうとしている。この目的を果たすために関西文化学術研究都市は誕生した。」

(奥田 東 元京都大学総長の提言(1978 年)より抜粋)

組織や学問等の壁を超えて、人類社会の課題解決に向けた新領域の研究開発を推進するパイロット都市の建設がこの提言からスタートした。

提言から半世紀近くが経過し、けいはんな学研都市は街開

き 30 年を迎え、人口は 25 万人超、就業者約 1 万 2 千人、学生数 1 万 9 千人、立地施設は 158 を数えている。特に各研究所を中心に様々な形で実証実験が年間約 90 件行われており、住民サポーター組織「Club けいはんな」（登録者数約 3,800 人）には、実証実験への参加はもとより、商品開発のマーケットリサーチ等にも協力を得ている。

また、世界 44 カ国、約 500 の基幹的な研究機関と連携するとともにスタートアップ支援アクセラレーションプログラムを実施する等、世界の大学や研究機関、企業との連携・交流を通じてグローバルなネットワークを築いている。

けいはんな学研都市の強みは、最先端の多様な研究施設や企業の集積、産学公住の連携による実証実験のプラットフォーム、恵まれた歴史・文化と自然、多様な大学の立地、外国人も含む多才な研究者等であり、一言で表すなら「多様性」である。

一方で、社会の課題は大学、研究機関それぞれ単独では解決できないことが多いことから、けいはんな学研都市内の大学や研究機関の間のさらなる横のつながりが必要な状況に

ある。まずは教員や研究者が共通の理解を深めるための場と機会を作って、それを共有することが不可欠であり、その上で学生や住民、立地企業等との相互作用を促進することが重要である。

そのために必要な、主要都市への交通インフラをはじめ、クラスター間を結ぶインフラ、そして実証実験をさらにスムーズに進めるためのソフトインフラ、さらにはネットワーク環境の整備にも課題がある。府県境を越えた制度・政策の相違が前進を妨げる場合もあり、多様性や集積の強みを活かすために克服すべき課題は多い。

3 けいはんな万博への期待

けいはんな万博は、大阪・関西万博と連携し、多様な研究機関、大学、企業、自治体等がつながりを強めて発展を目指す絶好の機会である。学生の関心も高く、コロナ禍で制限されていた人的交流を再活性化する機会としても期待される。

また、けいはんな万博は、この5月に実施したロボット・アバターチャレンジのように、単に展示を「見る」だけでなく、「作る」そして「参加する」ことに重点を置いている。研究者が自身の技術を活用し、「未来社会への貢献～次世代への解～」というテーマのもと、複雑な社会課題の解決に向け、市民と連携・協力して課題解決のモデルを示すことで、ポスト万博につながる「ソフトレガシー」を生み出すことができる。

さらに、科学技術への関心を育む場として、大学生だけでなく高校生や小中学生も巻き込む縦のつながりを強化することで、未来の科学技術人材の育成に貢献する場ともなる。

大阪・関西万博と、その成果の継承を意識した継続的な技術交流や人的交流を通じて、けいはんな学研都市が持つ技術

や魅力を世界に向けて発信し、海外の研究機関等とのネットワークをさらに広げ、互いの違いや価値観を尊重した相互連携を強化することで、グローバルな課題の解決に貢献するけいはんな学研都市の更なる進化が期待できる。

4 社会課題の解決に貢献するけいはんな学研都市

大阪・関西万博、けいはんな万博を契機に、けいはんな学研都市が、ポスト万博シティとして果たすべき使命は、日本や世界が直面する社会課題の解決に貢献することである。

多くの複雑で困難な社会課題の解決には、人文・社会学、自然科学等あらゆる「知と文化の融合」による、持続可能で多様性を尊重する新たな価値を創出する力が必要である。

既存の枠組みを超えた新しい発想を生み出すゲームチェンジャーとなる研究者やイノベーション人材の育成、文化や倫理的視点を取り入れた先導的な取り組み等が求められる。

けいはんな学研都市では、古都の文化や伝統を背景に、歴史と最先端技術が融合した研究開発等、多種多様な分野での横断的な取り組みが可能であり、自然豊かな住宅地と研究機

関が共存する環境において、革新的な先端技術の研究開発と、その実用化に向けた社会実装の潜在力も極めて高い。

また、科学技術がグローバルに展開されるなか、日本固有の言語資源や価値観・生活感覚を起点にした研究開発が可能な拠点として、けいはんな学研都市には日本社会の持続可能性に貢献する、独自のイノベーション創出が期待されている。

関西の東西軸と京都・奈良の南北軸が交差するけいはんな学研都市が他の拠点と連携し、ポスト万博シティとして、大阪・関西万博に集まったシーズや交流で築いた人脈を受け継ぎ、社会課題に対する解となる新しい技術をいち早く生活の中に実装する都市に発展することが、関西、日本、そして世界の発展にもつながっていくものと考えます。けいはんな学研都市は、そのために一丸となって取り組むことが必要である。

5 提言等の内容

提言1 都市としての在り方を根本から問い直し、社会課題解決に向けた「未来都市への深化」を図ること

これまでのけいはんな学研都市は、研究成果を試行的に実証する場として発展してきた。しかし、社会課題が複雑化・高度化する現代において、単なる「実証都市」に留まっていたはならない。研究成果を現実社会へと迅速に実装し、さらに持続的に発展させる仕組みが必要である。

ポスト万博シティの実現に向けて、都市全体が「課題解決型プラットフォーム」として機能し、組織の壁を越え、社会実装に向けて交流・連携・共創して取り組むことで、日本や世界が直面する問題の解決に貢献する「いのちと文化を尊ぶ」新しい都市モデルを構築することが求められる。

- ① 都市工学に基づく快適でかつ持続可能な社会を構築するための新しい科学技術を導入したまちづくり
- ② 歴史・文化、自然、芸術等の人文社会系と最先端の自然科学系との融合による新しい知と文化の創造
- ③ ポスト万博シティを具体化するために、大学、研究機

関、企業等がネットワーク化され、面としてのポテンシャルが強力に発揮される組織・体制の整備

- ④ 大学、研究所、企業、府県等の組織の壁を取り払う、または低くする仕組み（データやシステムの連携によるシームレスな情報共有、秘密保持契約等によるセキュアに情報共有する仕組み、クロスアポイントメント制度を含む柔軟な人材交流の仕組み等）の導入
- ⑤ スタートアップ企業を呼び込む魅力的な環境、支援、土壌づくり（けいはんなスタートアップ創生・育成拠点）

提言 2 次世代の研究者、イノベーター等、若い世代が活躍する「人材成長都市への深化」を図ること

ポスト万博シティの実現に向けて、イノベーション創出の原動力となるのは、多様な視点とバックグラウンドを持つクリエイティブな人材である。学生や女性研究者、外国人研究者が活発に交流し、共に研究開発を進められる包摂的な環境づくりが不可欠である。

また、子どもどころから異なる価値観に触れ、自由にディスカッションができる環境づくりは、次世代の研究者やイノベーターを育成する上で極めて重要である。けいはんな学研都市には、異なるバックグラウンドを持つ若者が互いに刺激し合い、成長できる仕組みを備えた、新しい都市モデルを構築することが求められる。

- ① 高校生、中学生、小学生が日頃から科学技術や文化芸術を体験・体感でき、研究者と交流できる場の提供
- ② 大学横断型の理系女子学生チームによる小中学生対象の科学講座・科学フェスを通じた将来の理系女子育成への土壌づくり

- ③ 学研都市内にある大学・研究機関の垣根を超えた、グローバルで多様性あふれる相互交流やフィールドワーク、研究開発のできる「けいはんな大学機構(仮称)」の創設
- ④ 学生が様々な業務を体験できる、研究機関・スタートアップ企業による共同インターンシップ制度の導入
- ⑤ 国内外からの多様な研究者・博士人材の育成を図るための、短・中期滞在も可能な居住施設の確保、多言語対応等の人的交流環境の整備

提言 3 「大阪・関西万博」のレガシーを継承、発展させ、世界に開かれた「国際交流都市への深化」を図ること

ポスト万博シティの実現に向けて、大阪・関西万博を契機に集積された技術や知見、国際的なネットワークを一過性のものとせず、夢洲からけいはんな学研都市への「東西軸」を活かして発展につなげる必要がある。異なった世代、国境、専門分野等の価値観が交差し、新しい出会いが生まれる共創の場を実現することが、ポスト万博シティ実現の鍵である。

自由なディスカッションが可能な文化を根付かせ、万博レガシーを継承しつつ新たな挑戦に取り組む意識改革を促し、情報発信とブランド戦略によりけいはんな学研都市の知名度を高め、さらに発展させる新しい都市モデルを構築することが求められる。

- ① 公共施設等に「エキスポシティ」を冠した命名、万博展示物の移設誘致、万博で実証された技術を継承する中核的研究開発機関等の誘致
- ② ポスト万博シティにふさわしい、ユニバーサルで自由な交流サロン、コワーキングスペースの設置

- ③ 最寄り駅からのアクセス強化と 12 の文化学術研究地区（クラスター）間の交通インフラの整備
- ④ 大阪、京都、奈良を訪れる国内外の来訪者を、唯一無二の特徴を持つ学研都市内の施設や先進的研究機関等に呼び込む仕組みづくり（サイエンスコミュニケーターの育成等）
- ⑤ 大学、研究機関、立地企業の研究シーズを一堂に集めた展示・交流施設、子どもや教師のための「文化科学未来館（仮称）」（仮想空間上のものを含む）等の整備

この提言は、けいはんな学研都市「大学・研究機関」共創会議として公表するものである。今後、本提言の実現に向けて具体的な取り組みを進めるに当たり、必要となる組織、予算、人材の確保について、国や関係自治体に積極的な支援をお願いしたい。

令和7年7月25日

けいはんな学研都市「大学・研究機関」共創会議

座長 松本 紘	国際高等研究所 所長(～令和7年6月)
櫻木 弘之	大阪公立大学 学長
尾上 孝雄	大阪大学 理事・副学長
塩田 邦成	大阪電気通信大学 学長
田尾 龍太郎	京都大学 農学研究科長
塚本 康浩	京都府立大学 学長
川崎 清史	同志社女子大学 学長
小原 克博	同志社大学 学長
金山 憲正	奈良学園大学 学長
細井 裕司	奈良県立医科大学 理事長・学長

尾久土 正己	奈良県立大学 学長
榑 裕之	奈良国立大学機構 理事長
宮下 俊也	奈良教育大学 学長
高田 将志	奈良女子大学 学長
塩崎 一裕	奈良先端科学技術大学院大学 学長
和氣 弘明	国際高等研究所 専務理事
浅見 徹	国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長
諏訪 康子	国立国会図書館 関西館長
内元 清貴	情報通信研究機構ユニバーサル コミュニケーション研究所 所長
本庄 孝志	地球環境産業技術研究機構 専務理事
本中 眞	国立文化財機構奈良文化財研究所 所長
美濃 導彦	理化学研究所 ガーディアンロボットプロジェクト プロジェクトディレクター
神門 正城	量子科学技術研究開発機構 関西光量子科学研究所 所長

なお、提言の策定に当たり座長として多大なるご尽力をされた松本 紘・国際高等研究所 所長が、本年6月に逝去された。ここに深く感謝するとともに、謹んで哀悼の意を表する。



関西文化学術研究都市
けいはんな学研都市

けいはんな学研都市「大学・研究機関」共創会議

(事務局) 公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構
株式会社けいはんな

(連絡先) 〒619-0237

京都府相楽郡精華町光台1丁目7 (けいはんなプラザ内)

TEL : 0774-98-2277 TEL : 0774-98-2202

ホームページ <https://www.kri.or.jp/>